



紺野純一／東日本旅客鉄道(株)で主に国内・海外旅行および観光業務に従事したのち、仙台駅長、仙台ターミナルビル(株)専務取締役総支配人を経て、平成27(2015)年より現職。東北の観光産業振興と経済の発展のために貢献している

《日本の明日を寺社と共に。》

未来考創

寺社をテーマにした観光について
未来志向で取り組む人を訪ね、
日本の未来を共に考え、創造します。

第2回

社寺観光と東北復興

東北観光推進機構専務理事／紺野純一氏

東北の「奥深さ」を知って、訪れてもらう。
そのために多方面の連携と支援、
積極的な情報発信と仕組み作りで
東北の価値を広めていきます。

廣瀬 東北は国内外からの観光需要が増していますが、今後の施策について考えをお聞かせください。

紺野 東北は春夏秋冬の自然が一番の魅力だと思われがちです。しかし社寺の歴史も古く、そこには地域と共に守り育ててきた伝統や文化も残っています。もちろん、海外の富裕層にしっかりと訴求できるポテンシャルもあります。出羽三山と呼ばれる東北を代表する山が山形県にあり、羽黒山には素晴らしい宿坊、下半島には恐山のイタコ文化もあります。このように東北各地には信仰を出発点とする精神的な価値が各所に残っているのですが、国内外にまだそれほど知られていません。だからこそ今後は東北の大きな魅力として社寺にまつわる情報を発信し、形にしたいですし、そこに大きな意義があると考えています。もちろんさまざまな支援も活用しながら、各地の魅力を掘り起こし、東北の価値を

広めていくことも必要です。
廣瀬 社寺を軸にした東北観光ということですね。大変魅力的です。

紺野 例えば福島県には、法相宗の徳一大師が磐梯町に仏教の一大拠点を築いた歴史があり、ここはかつて東北における仏教の中心地でした。岩手県平泉市では奥州藤原氏が築いた長く平和な時代の跡を見ることが出来ます。これらの地域を観光しながら社寺を巡る。とにかく多くの魅力的な社寺がありますから、再訪して巡っていただく。これができれば、息の長い観光施策となるのではないのでしょうか。そのために東北の奥深さをどのように連携しながら見せ、発信するのか、母体としてはどのような仕組みが好ましいのかを考えていくのがこれからの課題ですね。東北6県はそれぞれ人の営みも違います。加えて各地域で、社寺はコミュニティの中心として今でも大切にされています。東北は広い。だからこ

そ語り尽くせないし発信し尽くせないのですが、機会を見ながら発信していかないとけません。東北のスピリットに触れていただくことは、多くの人々の心を揺り動かすはずですよ。
廣瀬 東北の魂ですね。そこに観光が触れていくことで、地域もまた元気になっていく気がします。

紺野 東北の人々は、子供の頃から地元の社寺を誇りに思っていて育つていきます。だから海外の方などが各地の社寺に来てもらうことが地元のプライドになり、若い世代が魅力を再認識するきっかけにもなります。これまでの観光施策では、新しいものを取り上げがちでした。しかし今こそ原点に戻り、社寺文化のように各地で連綿と受け継がれてきたものに着目しなければなりません。今後は東北の新たな観光の魅力として社寺振興にも力を入れ、それを地域の振興へつなげていく。それがこれからの東北振興のひとつの形となるのではないのでしょうか。



聞き手／廣瀬崇之
一般社団法人全日本
社寺観光連盟理事。元
内閣府特命担当大臣秘書官、文化観光リサーチ株式会社代表